

ゆめ

さくら

# 夢咲楽

## ～和輪話通信～

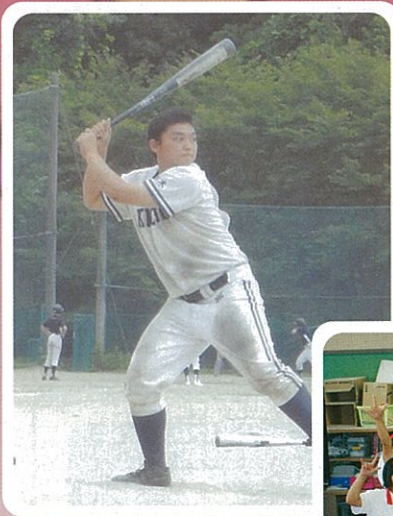
目次

■ 未来にはばたけ!! ～さくら市の若者たち～……1

■ マスミ先生 「スマートフォン、SNS時代の子どもたちへ安心・安全を」……3

■ 子どもを育てる!  
ふれあいメッセージ ……………2

■ 青少年センター活動報告 ……………4



### 未来にはばたけ!! ～さくら市の若者たち～

### 宝物は仲間との絆

2011年3月、日本列島を突如襲った東日本大震災。

それまでふるさと福島県ですつと野球を続けていた坪井 陸くんは、震災をきっかけに喜連川に家族と移り住み、今度は喜連川中学校の野球部に活躍の場を移すこととなりました。

坪井くんは小学2年生のときから、地元の野球チームに所属していました。小学校6年生まで過ごした福島県を離れ、中学で全然知らない仲間と一緒に過ごすことに不安はなかったのでしょうか。

「もともと住んでいた町がどこもなく喜連川に似ていたことも、喜連川に親しめた理由の一つだと思えます。何よりも野球が好きだったし、野球が仲間との絆を深めてくれました。また、バッティングやキャッチャーとしてピッチャーの投球を受けるとき、野球はとても楽しいと思います。でも何より、チームの仲間とみんなでプレーできるのがいちばん楽しいです。」

そう語る坪井くんにとって、野球部のチームメイトは本当にかけがえのない存在です。インタビュを進める中で、「仲間」という言葉が何度も何度も出てきました。悩んだときはお互いに励まし合い、支えあった仲間との時間があつたからこそ、3年生最後の大会に負けてしまった悔しさが最も印象に残っているのだそうです。

部活動を引退した現在は、弟の通う野球教室についていき、小学生の後輩たちと、受験勉強のかたわら一緒に野球を楽しんでいます。

面倒見の良さに加え、言葉少なめではありますが、一つひとつ丁寧に答えてくれる実直な人柄や大きくなってくまじい体格は、キャッチャーにもってこいです。坪井くんは、高校に進学しても野球を続けるつもりだと話してくれました。

最後に、坪井くんにとって喜連川中学校野球部や、クラスの仲間とはどんな存在なのか尋ねました。

「ふるさとこの福島のともたちと同じくらい大切な宝物です。」

中学校の仲間たちだけでなく、はなればなれになり、なかなか連絡が取れない福島のともたちへの想いも語ってくれました。

仲間への感謝を忘れない姿勢や思いやりなど、教えられることがたくさんありました。

坪井くんのキラキラしたまっすぐな瞳がこれからも輝き続けてくれることを願っています。

わわわ隊 大河原 千晶

## あいさつ活動@上松山小学校

「おはようございます！」元気な声が朝の校庭に響いています。中学生のお兄さん、お姉さん達が作る列の前を、小学生たちが恥ずかしそうに通りながら、あいさつを交わしています。今日は氏家中学校と上松山小学校がタッグを組んで行っている「あいさつ活動」の日なのです。

この活動は3年ほど前、文部科学省の小中連携のモデル事業として始まりました。上松山小学校を卒業した中学生が、登校前の時間を使って、小学校にあいさつボランティアに来てくれます。現在年4回ほど実施されているのですが、どんどん参加者が増えて来て、今回も30名以上が参加してくれました。母校を訪れた中学生たちは、実に嬉しそうに先生方とも話が弾んでいます。小学生たちも素敵な先輩たちとの出会いを、楽しみにしているようです。

小・中学生それぞれに話を聞くと、「楽しい。」「小学生が可愛い。」「先輩のちゃんとあいさつしている姿は、ためになる。」そんな声が返ってきました。



先輩の姿をちょっと眩しそうに見つめる小学生、後輩たちを目を細めながらながめている中学生、どちらにとっても楽しい時間なのだろうなと感じます。

校長先生も「小学生、中学生、双方に大変有意義な活動なので、回数を増やして月一度くらいに開催できると良いと思う。」と話していました。

息の長い活動として、今後も続いてほしいと、つくづく感じた朝でした。

わわわ隊 加藤 朋子

ふれあい  
メッセージ  
シリーズ5

## あいさつはなぜ必要か

上松山小学校  
校長 橋本 啓二



本校のあいさつ運動にはちょっとした味付けがあります。小中連携の一環として、本校を卒業した中学生と児童会が連携して取り組んで3年目となり、今年度は地域の協力を得ての地域ぐるみの運動をしているということです。年4回の運動には、毎回30名以上の中学生と多くの地域の皆さんが、それぞれのスタイルで本校の子どもたちとあいさつを交わしています。(青少年センターの皆さんにもご協力いただいています)日常的に地域全体にあいさつが響く、そんな姿を目指して取り組み始めたところです。

「あいさつは、人の心と心をつなぐコミュニケーションである。」と私は考えています。それは、きっかけであり、理解であり、親交です。子どもたちにはあいさつの無い学校や社会を想像させ、あいさつの必要性を説いています。しかし、まだまだ十分ではありません。

それゆえ、今、子どもたちはあいさつについてひたすら教えを守り、学ぶ段階であると思っています。そして、あいさつの真意を会得したとき、人は一人前の社会人になると考えています。

今日も、子どもたちへ元気なあいさつを求めています。ふり返り、くり返し「教育」が続いていることを実感する毎日です。



## ソーシャル ネットワーキング サービス スマートフォン、SNS(Social Networking Service)時代の 子どもたちへ安心・安全を

携帯電話、特に現在ではスマートフォン(スマホ)が子どもの間で急速に普及し、インターネット上で犯罪に巻き込まれたり加害者になったりする事件も少なくありません。どうすれば正しく使えるのか、課題を解決するための糸口を考えてみます。

### 「SNSでの炎上の恐怖」

#### 事例1

ブログで「自転車を盗んだ」ことを書き込みした女子高校生。この行為自体立派な犯罪ですが、これを読んだ皆さんは、同じことはしませんよね。ネットに匿名で悪口や不正行為を書き込んだとしても、ばれたり、処罰されたりしないと誤解してませんか？それは間違いです。記録が残るので追跡すれば特定できます。悪意があるものについては犯罪として処罰の対象となります。

#### 事例2

ツイッターで、芸能人のプライベートをちゃかすつぶやきをした女性社員が実名や顔写真をさらされてしまった事件。友人の仲間内に軽い気持ちで発信したのでしょう。ちゃかした人を良く思わなかった仲間が、発信元の「女性社員」をばらしてしまいました。

これらの事例でインターネット上では大さわぎ(炎上)となりました。日常生活でしないことはネットでもしてはいけません。一度、インターネットに出てしまったものは様々な所に流れ、取り返しのつかない事態になります。

### スマホの危機管理意識を持ちましょう

#### 失敗談

##### ①電話の通話継続

通話発信ボタンを間違えて押ししまった場合、ホームボタンを押して、待ち受け画面に移動したとしても裏で通話が継続されてしまうことがあります。

これが原因で、1万円以上の通話料金が発生してしまったようなケースがあります。

ポケットの中になってしまうときには、必ず画面ロックをかけ、電話の画面ではホームボタンは押さないように注意をしましょう。

##### ②ウイルスに感染

アンドロイド携帯は、自由度が非常に高い代わりに、コンピュータウイルスに感染しやすいことで知られています。

「きちんとウイルス対策用のアプリを入れて予防しておくようにすること」、「あやしいアプリはインストールしないこと」が重要な2つのポイントです。

スマホは携帯電話というより、小型のパソコンに近いものです。この特性を前提に操作することが失敗をしないためのコツです。

### まとめ

「SNSでは他人の悪口(文字)、誤解される言動(画像)は出さない。インターネットと実生活は地続き。実生活でしないことをインターネットでしないこと」

#### スマホ

##### 1. 暗証番号でロックしましょう

他人が勝手に操作しないように暗証番号を設定しましょう。いままでの携帯電話でも有効です。

##### 2. セキュリティソフトをインストールしましょう

パソコンと同じようにウイルス対策専用のアプリを利用するのがおすすめです。有償、無償のものがあるため、自分に必要な機能を確認してインストールしましょう。

##### 3. アプリをインストールする時は信頼できるサイトから

一般的に信頼できる場所とは、メーカーや通信会社が用意する正規のアプリケーション・ストアのことを言います。

### 『おとなのかたへ』

小中高生は生まれたときからインターネットの環境がある「デジタルネイティブ」世代です。器用にサービスを使うものの、利便性の裏に潜む危険を学ぶ機会がなく、リスクに対する意識が薄いと言われてます。

教育現場での情報モラル教育が必要です。非デジタルネイティブ世代のおとなはネットの事情に疎く、利便性を無視して全面的な規制に走りがちの傾向ですが、利便性、危険性のバランスがとれた情報モラル教育を社会教育として推進が必要と考えます。

※わわわ隊ICT研究班はサイバー防犯ボランティアとして栃木県警察本部サイバー犯罪対策室と連携しています。

# 研修班企画「講演会のお知らせ」

- ◆日時 11月9日(土) 午後1時30分～3時00分
- ◆場所 氏家公民館 ホール
- ◆内容 「青少年の栄養と食事」～身につけたい8つの食事術～  
ロンドン五輪競泳選手 萩野公介選手を食事面でサポートし、銅メダリストに導いた鈴木いづみ先生の講演会です。  
※無料でどなたでも参加できますので、皆さまぜひお越しください。



## 青少年センター活動報告



わわわ隊  
井上 里見

### 「バンドフェスティバル2013開催」

残暑の厳しかった日にもかかわらず、元気な笑顔とすこしの緊張でスタートした「バンドフェスティバル2013」に、支援の立場で参加させていただきました。

練習から本番まで指導者のことばをよく理解し、懸命にがんばる未来っ子たちの伸びのびとした演奏と演技は、観る側を清涼感でいっぱいにしてくれます。ホールに響く子どもたちの歌声と成長した姿が、とても嬉しく思えるコンサートでした。



わわわ隊  
体験活動班 班長  
加藤 有希

### 「ツインリンクの森であそぼう！」

9月1日(日)天候にも恵まれ、参加者57名の子どもたちとツインリンクもてぎに行ってきました。

キャストウォークでは、汗をかきながらも虫たちの声や木の香り、気持ちの良い風にはんりの秋の気配を感じ、たっぷり自然を満喫することができました。

森のクラフト体験では、オリジナルの「ルームプレート」を作り、個性のある素晴らしい物が完成しました。喜びながら大事そうに持ち帰る子どもたちの姿を嬉しく思いました。これからも青少年の体験活動向上に努めていきます。



### あとがき

早いもので、わわわ通信の発行も新体制に入り二度目です。今まで多くのチャレンジする若者を取り上げてきましたが、そんな中さくら清修高校演劇部の皆さんが、第37回全国高等学校総合文化祭第59回全国高等学校演劇大会にて優良賞及び「内木文英賞(特別賞)」を受賞したというニュースが舞い込んできました。

部員の皆さんの絆の深さと、はじける笑顔が印象的だったのを思い出しました。取材した若者たちが、飛躍を続けているのを耳にするとうれしく思います。

多くの人に、感動を与えてくれた部員の皆さんに拍手するとともに、今後もそのような若者たちが増えてくれたらと願っています。

わわわ隊 大河原 千晶

### 広報啓発班

大河原千晶  
田代 眞澄

飯島 満  
手塚 良作

岡 一雄  
福田 克之

加藤 朋子



さくら市の子どもを  
みんなで育てよう

第3日曜は  
家庭の日

ゆめさくら わわわつしん  
夢咲楽～和輪話通信～ 第21号  
発行日 平成25年11月1日

発行 さくら市青少年センター(事務局 生涯学習課)  
〒329-1492 栃木県さくら市喜連川4420-1  
電話 028-686-6621 FAX 028-686-5368  
電子メール syogaigakusyu@city.tochigi-sakura.lg.jp  
市ホームページ http://www.city.tochigi-sakura.lg.jp